



ハーチ株式会社

全社リモート勤務下でのコミュニケーション施策

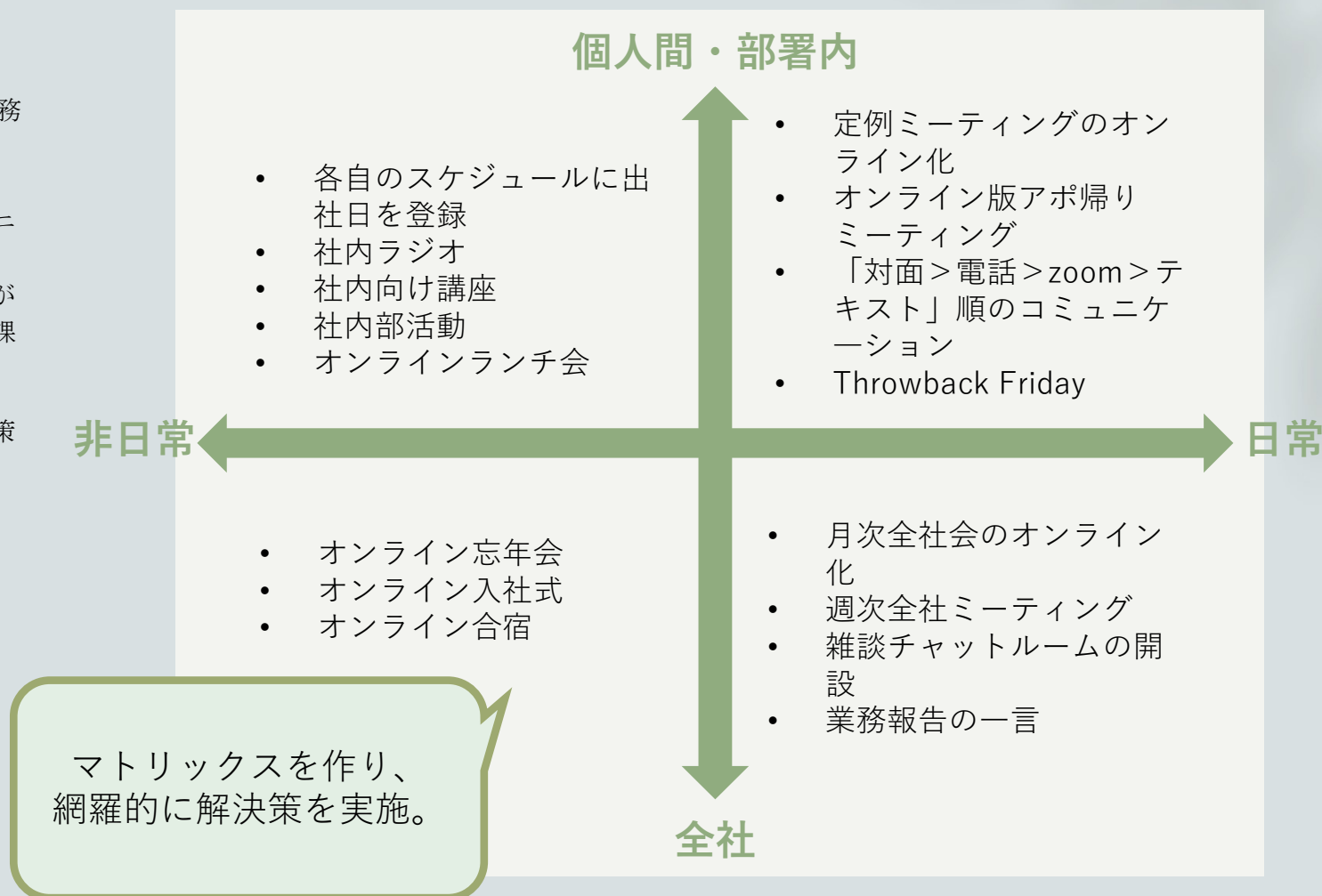
背景・課題と解決マトリックス

リモート勤務導入の背景 と課題

2020年2月より全社（約25名）リモート勤務を開始。出社義務がなくなったことで、オフィスで自然に発生していたコミュニケーションがなくなり、①業務に関わるコミュニケーションが減少、②仕事以外のコミュニケーションが減少、③ヨコ・ナナメのつながりの減少、④全社の一体感が減少、という課題が新たに生じた。

これに対して、各課題を解決するための施策を右のように洗い出し、実行した。

私たちの解決策



取り組みの内容

課題

- ①業務に関わるコミュニケーションが減少
- ②仕事以外のコミュニケーションが減少
- ③ヨコ・ナナメのつながりの減少

1) 個人間・部署内×日常

1. 定例ミーティングのオンライン化

これまでオフィスで行なっていた定例ミーティングをすべてzoomでの開催に変更。いままで参加しにくかった社外メンバーや顧問の方もいたが、移動時間がなくなったことで参加可能になり、質の高い議論が毎週できるようになった。

2. オンライン版アポ帰りミーティングの開催

社外との打ち合わせもzoomやGoogle Meetになったことにより、オフラインのときはアポ帰りの電車の中などでできていた打ち合わせのフィードバックがなくなった。オンラインミーティングでも最後に5分残ってフィードバックを行なうことで、その後の業務がスムーズになった。

3. 「対面＞電話＞zoom＞テキスト」の順でコミュニケーション

重要な会話や相談など、会って話したいことがあれば対面でのコミュニケーションを優先。物理的に可能な限り、対面でのコミュニケーション、電話での相談を重視している。

4. 内省の場「Throwback Friday」

オフィスで自然に発生していた部署内のフィードバックを補うため、新しくチャットルーム「Throwback Friday」をスタート。毎週1回、自身で振り返りを行ない、その内容をチャットで共有することで、自身の中での振り返りや周りからのフィードバックにつながっている。

2) 個人間・部署内×非日常

1. 各自のスケジュールに出社日を登録

あらかじめオフィスへの出社予定をスケジュールに登録しておくことで、他のメンバーも併せて出社することにつながり、オフィスで業務内外の軽い会話をしたり、ランチなどを一緒にとったりと、オフラインコミュニケーションが自然に発生するようになった。

2. 社内ラジオ「ハーチラジオ」をスタート

全員参加、隔週でチーム分けしたメンバーが30分話すハーチラジオをスタート。日頃関わらない人の話が聞け、くじ引きでチームを決めているので部署関係ないコミュニケーションにつながっている。

3. 社内向け講座「ハーチ大学」をスタート

「みんな先生、みんな生徒」をテーマに、社内メンバーが順に先生となり、自分が持っている知識を他のメンバーに共有する講座。これまで、動画制作、写真の撮り方、イラスト、NISA、暗号資産、社会保険など様々なテーマで開催している。

4. 社内部活動の発足

社内のメンバーと業務外のつながりを作るため、社内部活動を立ち上げた。映画部、読書部、クラフトビール部などがスタート。定期的な集まり、チャットでの情報交換、飲み会を行なっている。

5. オンラインランチ会をスタート

全員を対象に、部署関係なくくじ引きで4人のグループを作り、そのメンバーでオンラインランチをするという企画。毎月1回開催。ランチ代1人あたり1500円まで会社が負担し、メンバーは毎月シャッフル。他のメンバーとのコミュニケーションのきっかけを作った。

取り組みの内容

課題

- ②仕事以外のコミュニケーションが減少
- ③ヨコ・ナナメのつながりの減少
- ④全社の一体感が減少

3) 全社×日常

1. 月次全社会のオンライン化

これまでオフィスで行っていた月次全社をzoomによるオンライン開催に変更。これまでも地方勤務のメンバーに向けてオンラインでも開催していたが、声が聞き取りづらい、オフィスにいる人で会話が進んでしまう、という課題もあった。全員がオンラインで参加することで、社内情報格差が少なくなった。

2. 週次でオンラインによる全社ミーティングを開始

これまで全社でのミーティングは月1回（上記の月次全社）だけだったが、業務にかかわりのない人と顔を合わせることが激減したため、毎週zoomでの全社ミーティングを開催。業務内外の最近の出来事やうれしかったことなど毎回テーマを決めて、全員が2分ずつ話す。

3. 雑談専用チャットルームの開設

Slackで雑談専用ルームを開設。「虹が出た」「このサービスいい」など、業務外のコミュニケーションを行なっている。直接業務で関わらない人でもここでコミュニケーションをとることで、心理的距離が近くなり、仕事で関わるときのコミュニケーションがスムーズになるきっかけになっている。

4. 業務報告での一言

毎日の業務日報の最後に、最近の出来事や気づき、はまっていることなど、自由に一言を入れてもいいことにした。毎日のちょっとした出来事の報告があることで、やりとりしていないメンバーの様子がわかり、同じチームでいることを感じる事ができている。

4) 全社×非日常

1. オンライン入社式

新卒入社のスタッフに向けて、オンライン入社式を開催。既存メンバー全員が一人一言ずつの動画を撮影し、つなげると歓迎メッセージになるという全員参加型の動画を制作。新しいメンバーを歓迎。

2. オンライン合宿

これまで年1回、日常を離れた空間でオフラインで行っていた合宿もオンラインで開催。zoom、Miroなどを使って、全員で自社の事業を考えるというワークショップを開催した。
また、部署ごとにもオンライン合宿を開催。部署内での問題を洗い出し、その解決に向けて、全員で話し合う場を作った。

3. オンライン忘年会

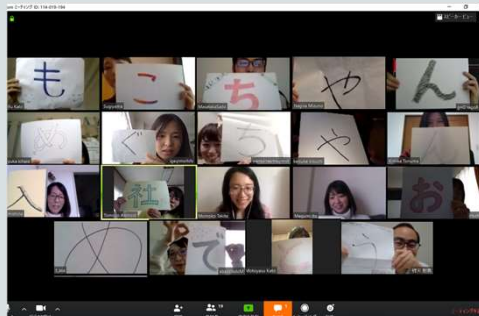
全社での唯一の懇親会となっていた忘年会もオンラインに移行。ゲームの商品もスタバ券、家事代行サービス券などオンラインで全国で利用できるものを用意し、地方にいるメンバーも場所関係なく参加できるようにした。

※使用ツール：

- オンラインミーティング・オンラインイベントは「zoom」で開催
- 社内コミュニケーションのメインは「Slack」を使用
- 社内ラジオや社内向け講座のアーカイブは「YouTube」で社内公開

取り組みの様子やコンテンツ

オンライン入社式



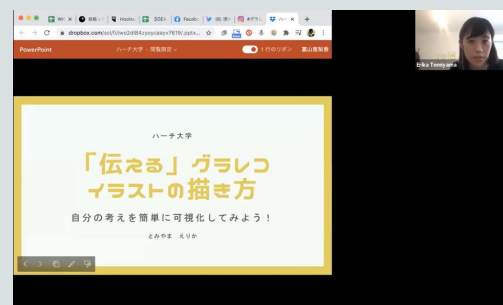
オンライン合宿



オンライン入社式のコンテンツ



ハーチ大学（イラスト講座）



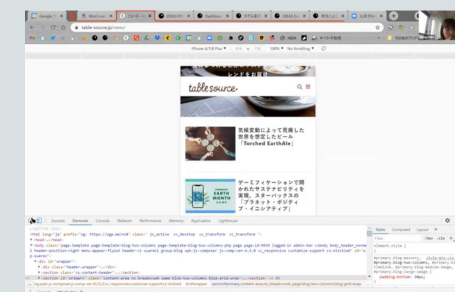
ハーチラジオ



ハ一チ大学 (写真講座)



ハーチ大学
(ウェブサイト講座)



オンライン忘年会（表紙）

社員の声、評価、今後の展望

社員の声（社員アンケートより）

- 週1回の全社ミーティングは、とても良いので続けてほしいです！リモートで仕事していると孤独感を感じやすいですが、このミーティングで所属意識を感じられます。
- オンライン入社式感動しました！！社員の皆さんで「入社おめでとう」のメッセージ動画を作って下さって、自分たちの入社を歓迎してくださっていることがすごく伝わってきましたし、より一層この会社で頑張っていこうと思いました！
- 読書部では、皆がどんな本を選び何を学んだのかを話したり聞いたりすることで、それぞれが心のうちに抱えている日頃の悩みや課題の発見・共有にもなっています。好きな本の話をしているうちに人生相談が始まることもあるくらい熱いトークができる、大切な場所になっています。

当社らしさが出ている点（社員アンケートより）

- 何より、メンバー一人ひとりの希望や事情にあわせて、いつでもリモートOK！出社したいときは出社OK！としているところが当社らしくて素晴らしいと思います。
- ハーチラジオは社内メンバーの人となりを知るのにとっても役立つステキな施策だと思います。リアルタイムで聞くこともできるし、アーカイブで後日聞くこともでき、メンバー間の親近感につながっています。
- Slackで何か話題を投げたら、誰かしら回答してくれていて、あったかい会社だなと思います。

経営陣の評価

主として「情報」を商品として取り扱う弊社の事業にとって、言語・非言語に関わらず社内における情報共有・伝達量やその質は企業価値の根幹となっています。リモートワーク主体への移行によりコミュニケーション頻度や質が落ちるなか、社内から続々と新しい提案が生まれ、一つ一つ実行に移したことで、結果としてリモートワーク移行前と比べて、コミュニケーションの質を維持しつつ、各人の働き方の自由度を高めることができ、全体として大きなプラスになったと感じています。

今後の展望

全社ミーティングの中で一人2分ずつ日常のことを話すことで、その話から部活動が立ち上がったたり、部活動からオンライン飲み会、雑談チャットルームができるなど、広がりがありました。また、オンライン合宿では、地方在住のため今まではオフラインで参加できなかったメンバーが参加できるという、オンラインだからこそできるメリットも感じています。

今後は、オンラインの良さを生かしてロケーションにとらわれない事業展開や採用活動をさらに強化しつつ、業務の質やプロジェクトのタイミングなどに応じてオフライン・オフィス空間をうまく活用していくことで、コミュニケーションの量と質をさらに高め、「働きやすさ」と「働きがい」の双方を両立させていきたいと考えています。